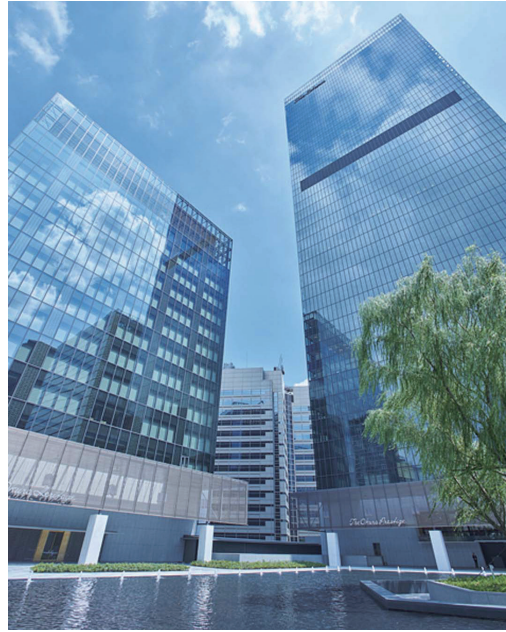


The Okura Tokyo



外観

高層棟「オークラ プレステージタワー」と、中層棟「オークラ ヘリテージウイング」の2棟が、中央に設けられた広場「オークラスクエア」を開んでそびえる。水面に空を映す水盤は都会の新たなランドマーク。



メザニン(中2階)

メザニンへと続く印象的な階段は谷口吉生氏デザイン。新生「The Okura Tokyo」の建て替えの基本計画と、ロビーや広場の設計は、吉郎氏の息子である吉生氏率いる谷口建築設計研究所が手がけた。

オークラ
ヘリテージウイング
ロビー

中層の別棟「ヘリテージウイング」のロビー。かつては大宴会場「平安の間」を彩っていた「三十六人家集料紙」の壁面装飾を移設し、美術館のような静謐な空間となっている。

オークラ
プレステージタワー
ロビー

建築家・谷口吉郎氏が設計したロビーを、細部装飾のほか、まわりを囲む柱寸法や柱間スパンまで再現した。耐震性を高めたうえで、名作として愛されてきたロビーの完全な姿をとどめ、オークラの伝統を継承している。

オークラ
ヘリテージウイング
ベッドルーム

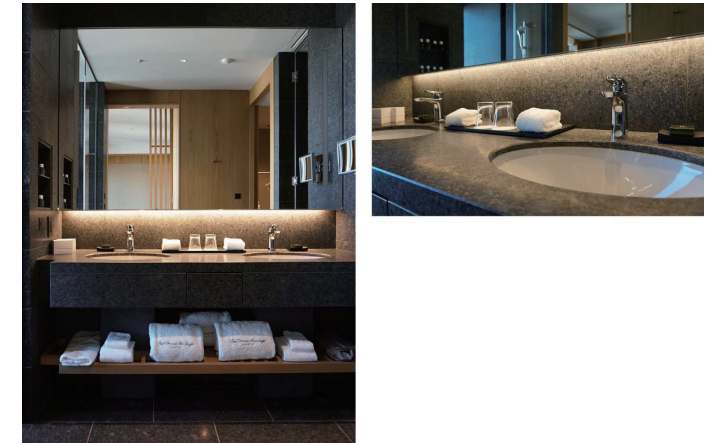
窓辺に縁側をイメージしたベンチをデザイン。寝室と水まわりの間を仕切る引き戸を全開すると、空間に広がり生まれる。内装設計は、GAデザインインターナショナル(ロンドン)、実施設計は大成建設によるもの。

オークラ
ヘリテージウイング
デスク

全体に木を多用した落ち着いた空間に、日本の伝統意匠がさりげなく散りばめられている。デスクは壁を背にしてしつらえられ、窓の方角に向かって開放感を感じながら読書や書きものなどができる。

オークラ
ヘリテージウイング
洗面室

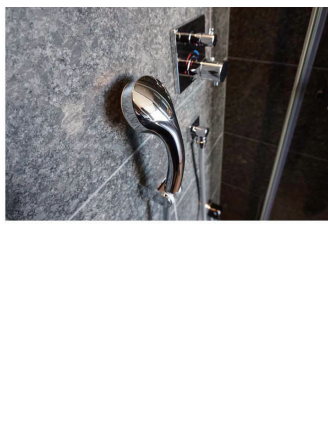
洗面室は、浴室の窓から自然光が入る爽やかな空間。洗面台は石張りの壁とデザインを統一。寝室との間の引き戸を全開すると、大きな鏡に室内が映り込んで面積以上の広がりを感じられる。

オークラ
ヘリテージウイング
洗面台

洗面台はゆりの2ボウルを採用。洗面台の下に棚を設けてタオル類をすっきりと収納。壁面のニッチ棚にはアメニティー類を取めることができ、洗面台を広く快適に使える。

オークラ
ヘリテージウイング
サウナ・浴室

全室にスチームサウナ(左)を完備して、都心のホテルライフに楽しみを添えている。浴室(右)には、シャワーと浴槽の間を生かしてスマートな全身鏡を設置。石張りの壁面デザインに変化を与えている。

オークラ
ヘリテージウイング
サウナ

艶消しを施した水磨き仕上げの石張りでしつらえてあるスチームサウナ。シャワーが備え付けられ、じっくりと汗を出し、心地よく水を浴びるサウナの一連のプロセスがプライベート空間で楽しめる。

オークラ
ヘリテージウイング 浴室

浴槽に浸かりながら都会の景色を眺められるビューバスタイプの浴室。内装は石張りで、ヘリテージウイングでは濃いグレーの艶消しの水磨き仕上げを採用。水まわりは全面床暖房が完備されている。

オークラ
ヘリテージウイング 浴室

ゆったり手足を伸ばせるバスタブに、TOTOの水栓を装備。当初は海外製の水栓も検討されていたが、スピーディーなお湯張り、デザイン性、メンテナンス対応など、総合的な評価からTOTOの水栓が採用された。

The Okura Tokyo



オークラ
ヘリテージウイング 浴室

お湯張りは遅すぎるとお客さまをお待たせしてしまい、速すぎてもオーバーフローのリスクがあることから、「The Okura Tokyo」では、5～6分のお湯張りが基準。TOTO製品ならそれに応える性能を提供できる。



オークラ
ヘリテージウイング トイレ

床も壁面も濃いグレーの石張りで統一されたトイレ。木とのコンビネーションで落ち着いた空間に。内部に十分な大きさで使いやすい手洗器を設置し、入口には出入りのしやすい引き戸を採用している。



オークラ
プレステージタワー トイレ

淡いグレーの石張りを施された水まわり。トイレは独立したレイアウトながら、同じ石張りで統一された空間となっている。内部に手洗器も設置され、ゆとりの広さが確保されている。



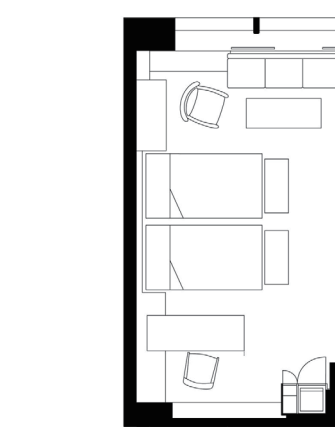
オークラ
プレステージタワー
ベッドルーム

28F以上の高層階に配された客室のベッドルームは、東京タワーと都心の風景が目の前に広がるダイナミックな眺望が魅力。独立型のトイレ、ゆとりの浴室・洗面室なども快適な滞在を約束する。



オークラ
プレステージタワー
水まわり

ビューバスタイプの浴室からは、地上約120～188mの景色が広がる。朝には自然光を浴び、夜には都会の夜景を眺めながらの贅沢なバスタイムが楽しめる。浴室と一体感をもたせた洗面室は開放感のある空間。



オークラ
ヘリテージウイング 図面

ヘリテージウイングの客室は、面積約60㎡で、間口8mが基本。室内はクロゼットを中心に回遊できるようになっている。寝室と水まわりをやわらかく隔てる二重菱格子の引き戸が日本の美と品格を感じさせる。



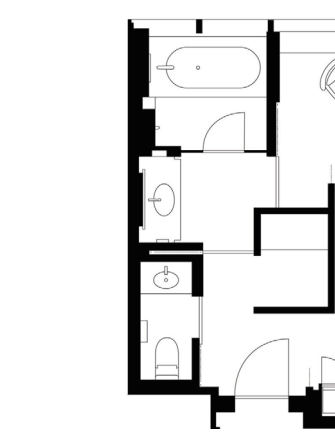
オークラ
プレステージタワー 浴室

プレステージタワーの水まわりの内装は、艶あり本磨きの石張りを採用。マットな仕上げのヘリテージウイングとは異なる印象となっている。シャワーと浴槽の間を生かして小物棚をしつらえるなど細かな配慮も。



オークラ
プレステージタワー 浴室

浴室にはカラー液晶防水テレビを完備。オーバーヘッドシャワー付きで、爽快なシャワー浴が楽しめる。窓には、ブライバシーに配慮してリモコンで羽根の角度が調整できる木製ブラインドも設置されている。



オークラ
プレステージタワー 図面

プレステージタワーの客室は面積約50㎡、間口はタイプにより6mまたは7.2m。ヘリテージよりモダンなデザインで高層階の眺望が魅力。室内はクロゼットを中心に回遊でき、寝室と水まわりは引き戸で仕切ることができる。

水まわりの特長

建物の特徴

「ホテルオークラ東京」本館の全面的な建て替え事業。1962(昭和37)年の開業以来、改装や耐震改修を重ね営業を続けてきたが、建築家・谷口吉郎氏(1904-1979)の設計による本館ロビーの耐震補強については、開口部の一部が壁になってしまうという課題があった。そこでホテルの象徴ともいえるロビーの完全な姿を留めながら、耐震性を高めるために建て替えが決定。新生「The Okura Tokyo」は、高層棟「オークラ プレステージタワー」と中層棟「オークラ ヘリテージウイング」からなる。生まれ変わったロビーは、親しまれてきた意匠を忠実に再現しながら明るさも増し、伝統を継承しつつ、新しい時代にふさわしい場となっている。

水まわりの特長

水まわりは、寝室と引き戸で仕切られ、全開にすると空間に開放感が生まれる。浴室の窓から都会の景色が見下ろせるビューバスタイプが用意され、特にオークラ最上位ブランドが展開するヘリテージウイングには、深型ブローバス、2ボウル洗面台、スチームサウナ、床暖房が完備されている。内装設計を担当した海外のデザイン事務所は、当初、海外製の水まわりを提案していたが、バスタブのお湯張りに12分を要することから、5～6分を基準とするオークラの基準とあわず、施工側からTOTOを推薦し、性能はもちろんデザイン面も認められ採用が決まった。水まわりの内装は、棟によって質感と色味を変えた石張り仕上げとなっている。

建築概要

名称	The Okura Tokyo
所在地	東京都港区虎ノ門2-10-4
施主	ホテルオークラ
設計	虎ノ門2-10計画設計共同体
施工	大成建設
竣工年月	2019年7月
敷地面積	20,442.11㎡
建築面積	13,262.54㎡
延床面積	180,905.72㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造(地下)、 鉄骨造、一部コンクリート充填鋼管構造(地上)
	地下1階、地上41階、塔屋2階

おもなTOTO使用機器

ウォシュレット一体形便器	ネオレストDH:CES9575系
スティックリモコン	TCA335
洗面器	L548U
水栓金具	TLG01302JA、TLG01303JA、TBG01201J、TLG04302JA、 TLG04303JA、TBG04201J
浴室用水栓金具	TBV02403J、TBV02404J
シャワーヘッド	THYC60C、THC系